校長からのお正月の宿題

平成 30 年 12 月 21 日　冬季休業前の全校集会

今年も、本校はよい年が迎えられそうです。
494 名の生徒と 49 名の教職員が、事故なく、病気もせず、健康で新年を迎えられそうです。感謝しなくてはなりません。

1 年生は、元気満々で活力があります。無言膝つき清掃にもしっかり慣れ、学校をピカピカにしてくれています。部活動の 1 年生大会では、大活躍する選手も出てきました。
2 年生の林間学校のキャンプファイヤーでの盛り上がりにはびっくりしました。部活動での新人戦大躍進、すばらしかったです。
3 年生のリーダーシップ、すばらしいです。部活動、修学旅行、体育祭、東雲祭では、3 年生の実力がいかんなく発揮されました。健康に十分注意して、受験勉強に集中していってください。

もうすぐお正月ですので、今年も、校長からお正月の宿題を出そうと思います。
昭和 44 年に書かれた小学校 5 年生の作文を紹介します。

今朝は 9 時に目が覚めた。雨戸を開けると、まぶしいばかりの日の光が部屋いっぱいに広がった。昭和 44 年の元旦の光だ。前の晩に揃えた新しいズボンとセーターと靴下に着替えて下に降りていった。新しい洋服なのでちょっと恥ずかしいなと思ったとたん、母が「わあ、かっこいい」とひやかしたので、なお恥ずかしくなってしまった。こたつの上に、おとそやごちそうがずらりと並んでいたので、私は急いで顔を洗った。そして、母と並んで父に「おめでとうございます」と手をついてあいさつした。・・・・・・・・

私は、昭和４４年は、このこと同じ小学校 5 年生でした。テレビが白黒からカラーテレビになって、小さな冷蔵庫を買って、洗濯機は脱水できませんでした。車は、中古の軽自動車だったと思います。お正月だけは、少しおいしい物が食べられたり、ちょっとだけ贅沢ができるので、お正月がとっても楽しみでした。
今はどうでしょう。薄型の大きいテレビがあり、洗濯も、食器洗いも自動でやってくれます。薄い携帯電話で何でもできてしまいます。地球の裏側の人とも顔を見てあいさつを交わすことができます。

でも、時代がどんなにめまぐるしく変わっても、当たり前のことは変わりません。変えてはいけないものがあります。
当たり前で平凡なことの中で、第一にあげられるのが「あいさつ」です。「あいさつ」の大切さは、時代が変わっても変わりません。これからもずっと変わりません。
本校では、この当たり前のことを大切にしています。
「平凡を非凡に努める」ことをお願いしています。
そこで、校長からのお正月の宿題は、「あいさつ」です。
元旦の日に、親や家族に、「あけましておめでとうございます。」とあいさつをしてください。いいかげんでなく、新年のあいさつをしてみてください。
きっと、いいことがあると思います。